

「現役の東大生がやって来た！」



南部はとっても魅力的な町です!

現役東大生の青木門斗(あおきもんど)さんです。
 以前から南部町の高校生サークルや青年団と交流があり、その度ごとに南部町のまちづくりや社会教育への関心が深まったそうです。今回で三回目となる来鳥に合わせ、本校を訪問(R5.2.22)されました。急遽ですが、16時から多目的室に有志が20名程度集まり、「青木さんと語る会」が始まりました。生徒からは次々と質問がでます。
 ○好きだった教科は何ですか。
 ○中学校のときどのくらい勉強すればいいですか。
 ○部活はなんですか。○好きなアーティストは誰ですか。
 ○東大生はみんなクイズが得意なんですか。(笑)



やはり、日本最高学府である東京大学生に興味津々でした。青木さんは、今後、大学での学びを活かし、中高生が放課後にふらっと顔を出せる居場所づくりを推進する仕事に関わっていきたくて夢を語られました。刺激を受けた子どもたちの感想を、一部紹介します。
 「すごく楽しかったです。具体的な数学や歴史の勉強の仕方がわかってラッキーでした。」「話がうまくて、ためになることが多かったです。」

大寒波の日に思い出した出来事

大雪が降る度に思い出す出来事があります。兵庫県で開催された会議を終え、地元まで車を走らせていると、昼から降り始めたぼたん雪の影響で、ホワイトアウト状態になってしまい走行不能を余儀なくされました。でもここは夜8時過ぎの田舎道。「一旦停車して止むまで待とう。」と考え、車をバックさせようとしたとき、タイヤが空回りしてにっちもさっちもいなくなりました。場所は兵庫県と岡山県の県境付近であることはわかったものの、土地勘がないので、だれに助けを求めていいかわからず、途方に暮れていました。

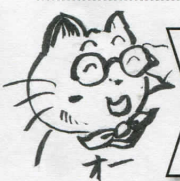
すると、一人、二人とスコップをかついだ30代前後の方が現れ、当たり前のように車付近の雪をかきだしていただきました。お礼を言っても「ええねん。」の一点張り。「止まるとあかんから、このまま走って帰りや!」と言ってくれる二人を背にして、私はお礼のクラクションを鳴らすのが精一杯でした。
 帰り道は、雪ではなく・・・涙で前が見えなかったのを覚えています。



「建設」の対義語は「破壊」なんですか?

近所に高さが4メートルを超える大きな夾竹桃(きょうちくとう)があります。季節になると、きれいな花を幾重にも咲かせ、散歩の方やドライバーに元気をくれる地域のシンボルツリーです。今年も、夏の猛暑にも冬の嵐にも耐えながら、大きくなっていく姿に元気をもらっていました。また、以前勤務していた小学校でも、校庭に広島市からいただいた夾竹桃の苗を植え、育てていく過程が楽しみだったので、親近感もありました。でも・・・

今年の2月13日に、突然切り倒されてしまいました。そこに新しい道路ができるからだそうです。高校入試では、「建設」の対義語は「破壊」です。もちろんそう答えなければ正しい解答ではありません。しかし現実には、「建設=破壊」なのですね。時代の流れに抗うことはできないけれど、「この夾竹桃の木は残そうや!」という声はなかったのでしょうか・・・本当に残念で悲しいです。



生徒の名言

- やっぱり行動する前に考えないとだめですね。考えることを大切にしています。(3年)
- 『おこめのムース』が余ったら、じゃんけんで勝ち取るしかないでしょう。(2年)
- (コロナが)5類になれば、前みたいに全員で班にして給食食べていいですか?(1年)